

令和8年5月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

多摩川のオシドリ

多摩川は東京都でも最も主要な河川の一つです。青梅市でも市域の東西を貫く最も主要な河川であり、水源・水運など様々に利用されてきました。

東京都において、多摩川は鳥類にとっても重要な生息地になっています。都内の多摩川では、奥多摩町の小河内ダムから多摩川河口までの90kmにわたり、市民・研究者・学生等によって1kmごとに鳥類の種類・個体数が調べられており、蓮尾他(2021)および御手洗(2026)の2つの研究として報告されています。これらの研究結果から、河川の鳥類を代表する種類であるカモ科のオシドリについての多摩川での生息状況を紹介します。

カモ科オシドリ *Aix galericulata* は、雌雄で模様が大きく違いますが、ともに美しい羽色を持つ全長約41～45cmのカモ類です。植物を中心に昆虫や貝類を捕食する雑食性で、河川や湖沼に生息します。

上記の研究では、図1・図2で示すように繁殖期・非繁殖期とも多摩川の上流側である青梅市と奥多摩町でしかオシドリは確認されませんでした。オシドリは大木の樹洞で営巣するため、繁殖期は森林が広がる青梅市・奥多摩町に限って確認されたのは妥当なことだと考えられます。一方で、越冬期は森林地帯でない河川や池沼でも生息する

はずですが、繁殖期と同じような範囲でしか確認できませんでした。

東京都本土部では、オシドリは絶滅危惧種で、「繁殖については西多摩の溪流沿いの山林で記録されているが、越冬地である平地部の池・湖・河川で、個体数の減少が見られる」とされています(川内, 2023)。今回の研究結果からも、青梅市より下流側の多摩川のオシドリの厳しい現状がうかがい知ることができます。

青梅市では一年を通して、比較的広い範囲でオシドリを見ることができます。そのことは青梅市の豊かな自然環境がまだ残されていることを示しているのです。



オシドリ
(手前が雌・奥が雄)

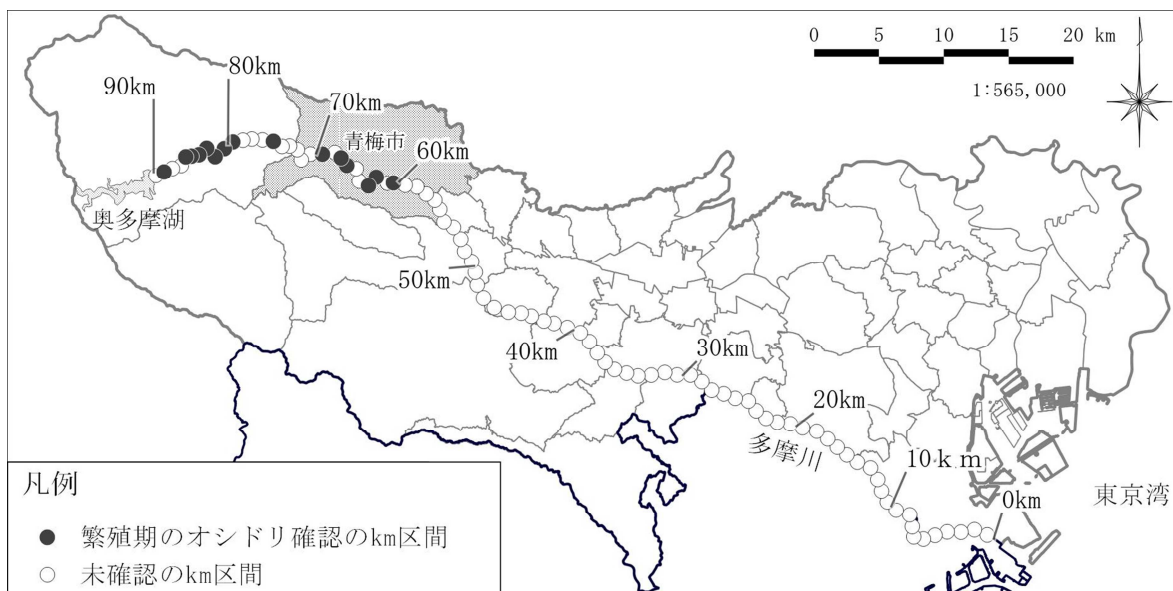


図 1

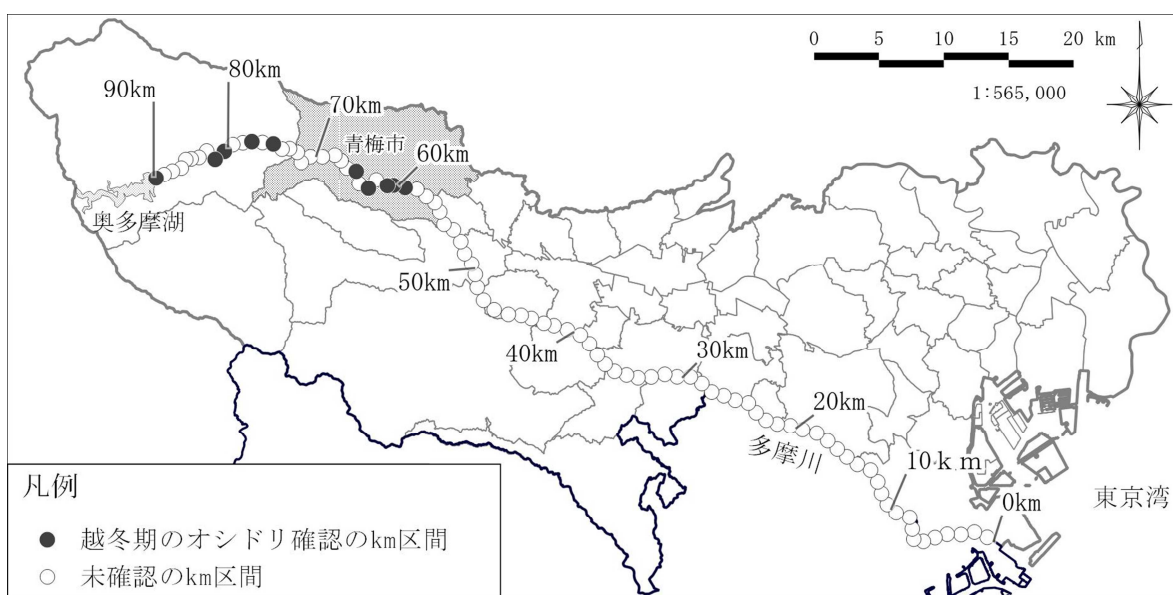


図 2

<参考文献>

- 川内博 (2023) 「オシドリ」 452 p. 『東京都レッドデータブック 2023 - 東京都の保護上重要な野生生物種 (本土部) 解説版 -』 (東京都環境局自然環境部)
- 蓮尾純子・増田直也・御手洗望・井上太志・川内博・徳長ゆり香・鈴木遼太郎 (2021) 『多摩川鳥類カウント再現 (研究助成・一般研究 VOL.43-N0.255) 』 (公益財団法人東急財団)
- 御手洗望 (2026) 「多摩川鳥類カウント調査～青梅市の上流域と下流域との比較」『青梅市文化財保護指導員活動報告書 第 41 号 (令和 6 年度) 』 (青梅市郷土博物館)

(文責 御手洗望)